

理念体系



持続的に輝き続ける未来のために必要なこと。

それは、人びとが心豊かに暮らすことのできる社会の実現であると考えます。

私たちの役割は、さまざまな技術や発想をつなぎ、社会が抱える課題を解決に導くこと。

自社だけではなく、パートナーと協業しその力を組み合わせることで、

人びとの心を充たす美しさや快さ、安心を届けていきます。

目で見えること、触れて感じるこ、あるいは製品の品質を通して感じることなど

人びとの感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来の実現に挑み続けます。

CONTENTS

グループ概要

- 2 理念体系
- 4 読者のみなさまへ
- 6 artienceグループのあゆみ
- 8 artienceグループの姿
- 10 artience at a Glance

感性に響く価値の創造

- 12 トップメッセージ
- 特集：artienceグループの強み**
 - 18 成長地域へのグローバル展開
 - 21 オープンイノベーション
 - 24 独自のコア技術によるビジネス展開
- 26 価値創造モデル
- 28 価値創造の源泉となる資本
- 30 2050年を見据えたartienceグループの価値創造
- 32 グループマテリアリティ2025-2030
- 中期経営計画artience2027**
 - 36 中期経営計画artience2027
 - 37 経営戦略
 - 40 財務戦略
 - 42 人的資本戦略
 - 46 技術・知財戦略
 - 48 独自のコア技術の応用・進化による価値提供
- 事業**
 - 50 色材・機能材関連事業
 - 52 ポリマー・塗加工関連事業
 - 54 パッケージ関連事業
 - 56 印刷・情報関連事業

価値創造を支える基盤

- 58 サステナビリティ対談
- 62 社外取締役からのメッセージ
- 64 マネジメント一覧
- 66 コーポレート・ガバナンス
- 76 リスクマネジメント
- 82 コンプライアンス
- 83 気候変動への取り組み

コーポレートデータ

- 86 財務情報
- 99 株式情報
- 100 グループ会社情報
- 102 社外からの評価
- 103 編集方針

読者のみなさまへ

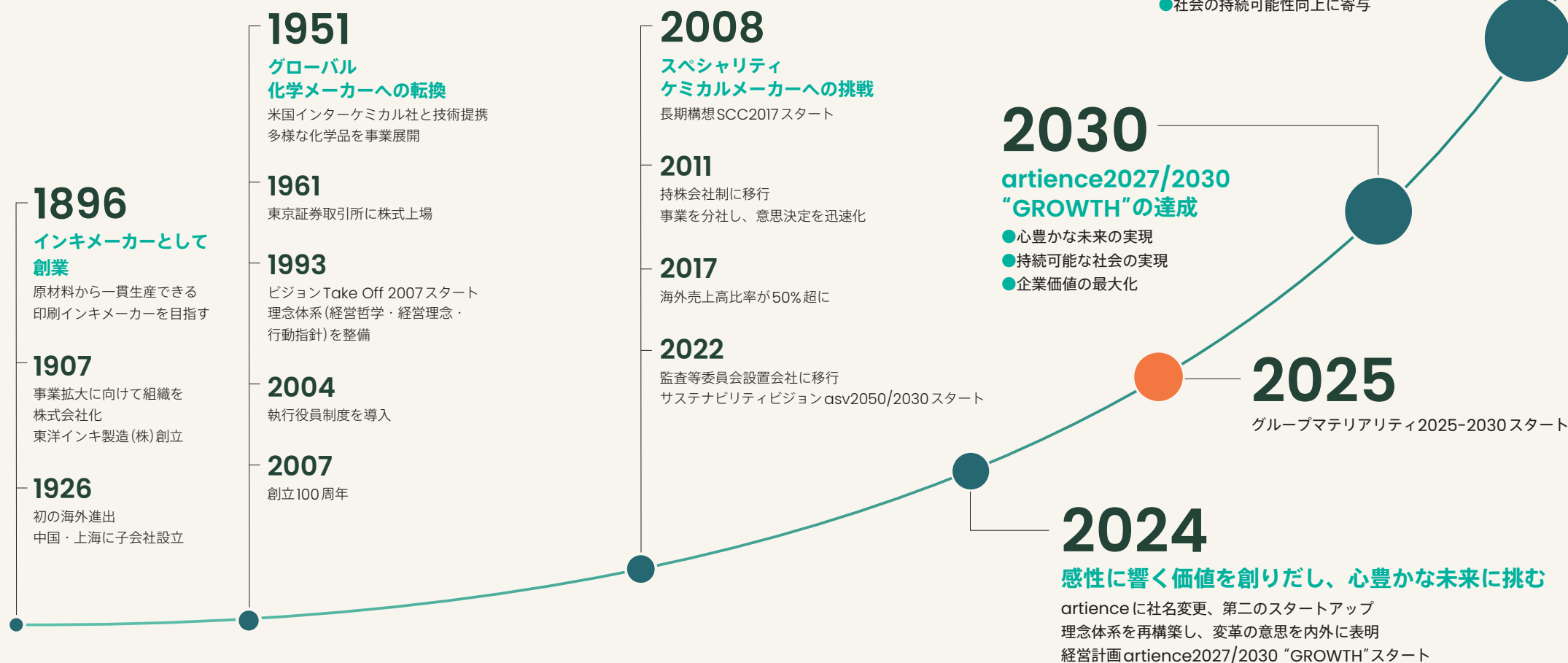
統合レポート2025の発行にあたって

artienceグループの統合レポートは、当社グループの全体像と価値創造ストーリー、すなわち当社グループがどのような社会課題を認識し、それらの解決に向けていかに考え、取り組んでいるかをご理解いただくために、当社グループの経営戦略、財務戦略、人的資本戦略、事業、コーポレート・ガバナンス、環境や社会への取り組みを統合的に説明しています。

中期経営計画artience2027の2年目を迎えて発行する「統合レポート2025」では、計画実現に向けてグループ各所で推進しているさまざまな取り組みや戦略について、それぞれの責任者の生の声でご説明するために、2024年版を上回る量のインタビューコンテンツやメッセージを掲載しています。また、昨年から今年にかけて実施したステークホルダーコミュニケーション活動において、多くのステークホルダーから寄せられた情報開示のリクエストに最大限応えています。これらにより、当社グループがこの計画初年度においてどのような変革を遂行したのか、今後どのように変革し、どのような未来像を描こうとしているかを表現することに努めました。ぜひご一読いただき、統合レポートならびに当社グループの経営に対するコミュニケーションの契機としていただければ幸いです。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2025年6月

■変革の履歴



統合レポート2025のポイント

本レポートは、さまざまな角度、切り口でartienceグループを紹介しており、多くのコンテンツを掲載しています。読者のみなさまに「特にこのコンテンツに注目して読んでほしい！」と思うポイントをピックアップしました。

価値創造の原動力を知ってほしい！

■特集：artienceグループの強み

- 成長地域へのグローバル展開 [▶P.18](#)
- オープンイノベーション [▶P.21](#)
- 独自のコア技術によるビジネス展開 [▶P.24](#)

当社グループが「感性に響く価値」を創りだす原動力となっている「3つの強み」を特集コンテンツで紹介。それぞれの最前線で取り組んでいるキーパーソンが解説します。

経営トップの熱い思いを感じてほしい！

- トップメッセージ [▶P.12](#)
- サステナビリティ対談 [▶P.58](#)

「変革」「企業の役割」「価値創造」「人材」「チャレンジ」などさまざまなテーマで、高島悟グループCEOが語ります。社外有識者との対談からも熱が伝わってきます。

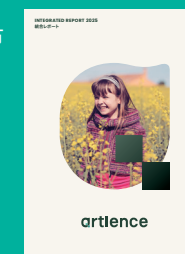
持続的成長に向けた戦略を見てほしい！

- 中期経営計画artience2027 [▶P.36](#)
- グループマテリアリティ2025-2030 [▶P.32](#)

SRやIRで株主・投資家のみなさまから寄せられたご指摘やご要望に対して、当社グループの経営戦略・財務戦略・人的資本戦略についてそれぞれの責任者が詳細を説明します。新たに策定したマテリアリティについても、策定プロセスから外部有識者のコメントまで全貌を紹介しています。

制作プロセス

- ①株主・投資家とのコミュニケーション
- ②企画編集会議にて編集方針策定、コンテンツ企画制作を実施
編集メンバー：グループ経営部(IR)、グループ広報室(CSR)
監督：コーポレート部門担当役員
- ③グループ経営会議と取締役会で企画制作について討議、承認
- ④グループ各社の部門関係者と協議、原稿作成
- ⑤グループCEOとコーポレート部門担当役員が
内容を確認、了承
- ⑥PDFをウェブ配信、冊子を印刷し配布
(日本語版のみ)
- ⑦発行した統合レポートを用いた株主・投資家とのコミュニケーション



artienceグループのあゆみ

artienceグループは、創業から120年以上にわたって常にその時代の社会情勢や需要に柔軟に対応し、成長を続けてきました。時代ごとで事業戦略上の大きな決断を下し、それをたゆまず実践してきた結果が、今日のグループの姿につながっています。



創業者
小林鎌太郎
(1875－1938)

学術教育の普及を担う高品質な国産印刷インキのために

11歳で横浜から上京した小林鎌太郎は、看板屋の徒弟、絵具商の店員を経て、24歳で独立、東京・日本橋に印刷インキ店を開業しました。幼くして両親を失ったことで小学校にも通うことができなかった鎌太郎は、読み書きができないことで非常に苦労した経験から、未来を担う子どもたちが教育を受けることの大切さ、日本の発展における学術教育の重要性を人一倍感じていました。鎌太郎は、学術教育に必要な書籍や教科書に使われる印刷インキの国産化と品質向上を志し、1907年1月、東洋インキ製造株式会社を創立しました。

1896～

インキメーカーとして創業

中小印刷業者向けの練肉（原材料を練り混ぜてインキを作ること）作業代行という商売で印刷インキ店「小林商店」を創業した鎌太郎の前に、良質なインキ製造には高価な輸入原材料が欠かせないという現実が立ちはだかりました。鎌太郎は原材料の自製化に挑戦し、1937年、ついにその後の当社グループを代表する顔料フタロシアニンブルーの自製化に成功しました。こうして、素材から印刷インキまでの一貫生産を支える技術を獲得し、国内有数のインキ会社に成長しました。



小林商店時代のインキ色見本シート



設立当初の東洋インキ製造(株)本社(1910年頃)



工業用両面接着テープ「ダブルフェース®」



粘着剤(感圧性接着剤)「オリバイン®」

1950～

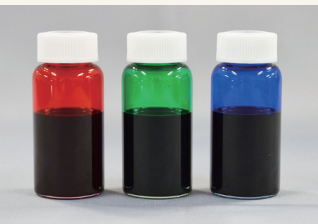
グローバル化学メーカーへの転換

1951年、米国最大の化学会社インターケミカル(現BASF)との技術提携によって導入した合成樹脂技術により、従来のインキにはない優れた色彩・光沢・耐久性を持った合成樹脂型インキが完成しました。ほかにも金属塗装剤や粘接着剤などの技術も導入し、塗料や着色剤、両面テープなど、多彩な製品を扱う化学メーカーとして発展しました。一方で1963年、中国や東南アジアへの輸出を本格化、その後も世界各地に拠点を展開し、グローバル事業基盤を着々と構築していきました。

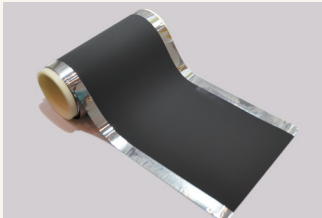
1990～

独自技術による新市場への展開

1990年代以降、インキや接着剤、塗料、着色剤などに使われてきた技術を、新たな産業分野に応用する研究開発を推進してきました。有機顔料やポリマーが持つ電氣的・光学的特性、印刷や塗加工で培われた膜構造制御技術、接着剤や色材の開発で用いられる分散制御技術などをベースにした機能性付与技術を進化させ、エレクトロニクス、通信、自動車、エネルギーなどの新市場に向けて、さまざまな機能性素材を展開しました。2016年からは医療市場にも参入しています。



FPD用カラーレジスト「ライオキュア®」

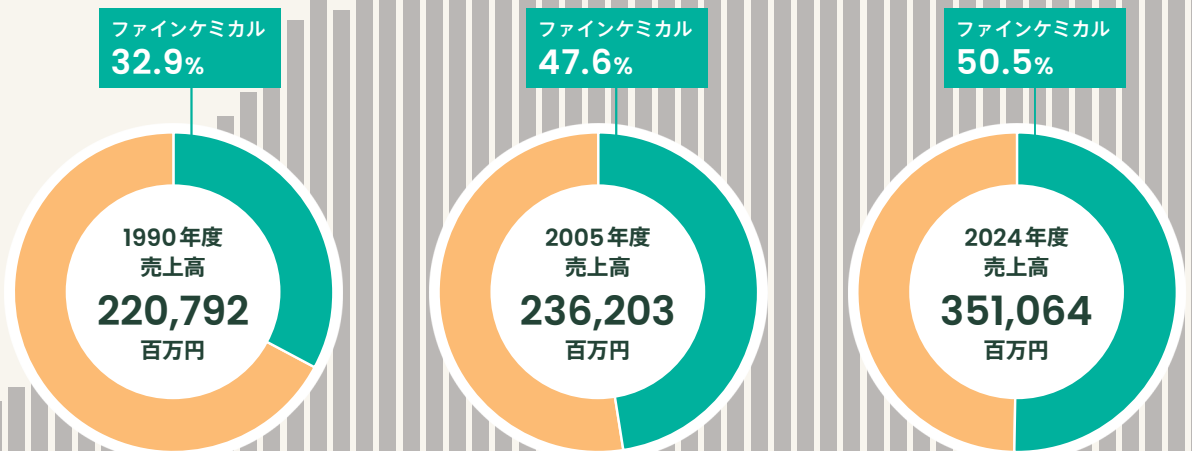


リチウムイオン電池用電極材料「リオアキュム®」



電磁波シールドフィルム「リオエルム® TSS」

事業ポートフォリオの変遷



2024～

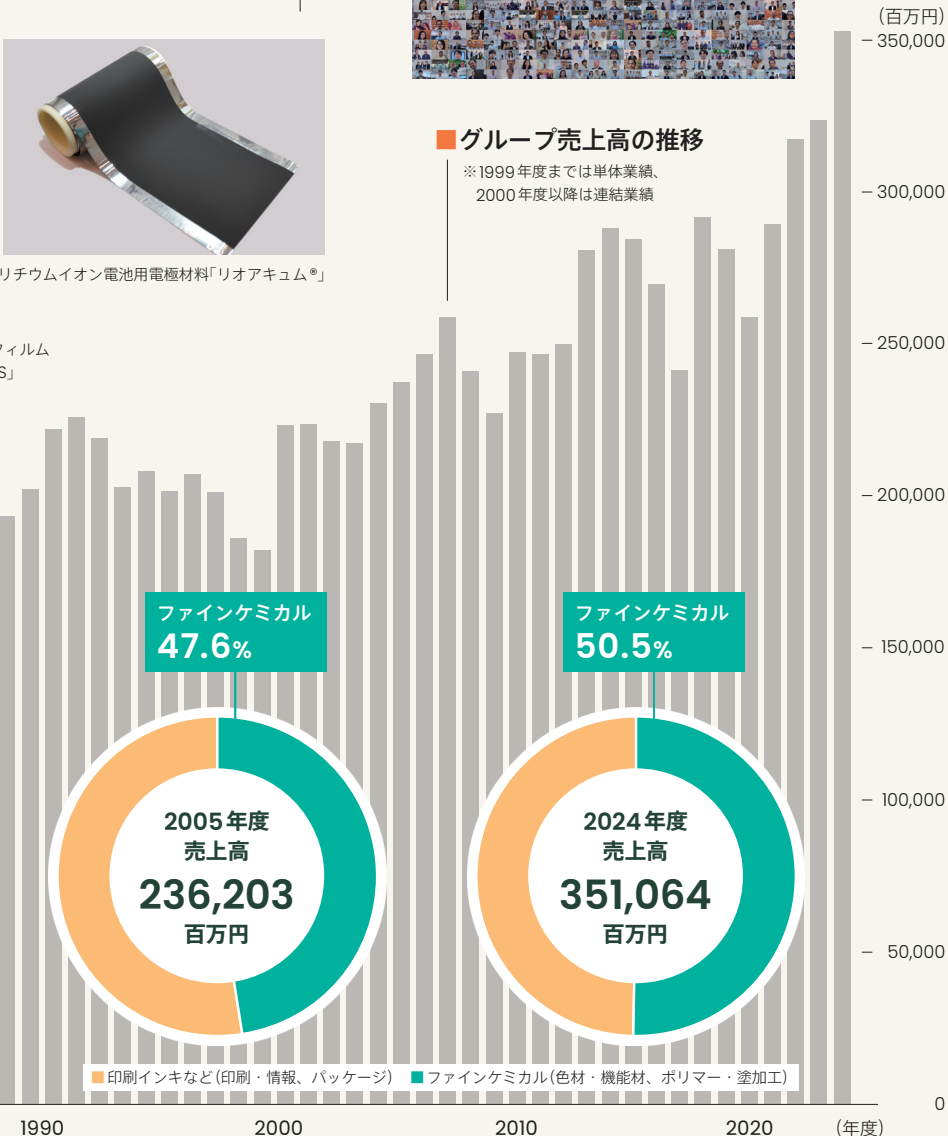
感性に響く価値を届ける企業への変革

2024年1月、当社はartience株式会社に社名変更しました。株式会社設立以来117年間にわたって掲げてきた「東洋インキ」の文字を看板から外すことで、変革への強い決意を示し、第二のスタートアップであることを内外に表明したものです。私たちは、驚きや感動、ワクワク、心地よさなど、人の心を動かす価値と、確かな技術に裏打ちされた機能や高い品質に基づく信頼を磨き上げることで「感性に響く価値」を創りだし、世界の人びとに届ける企業グループへと変革します。



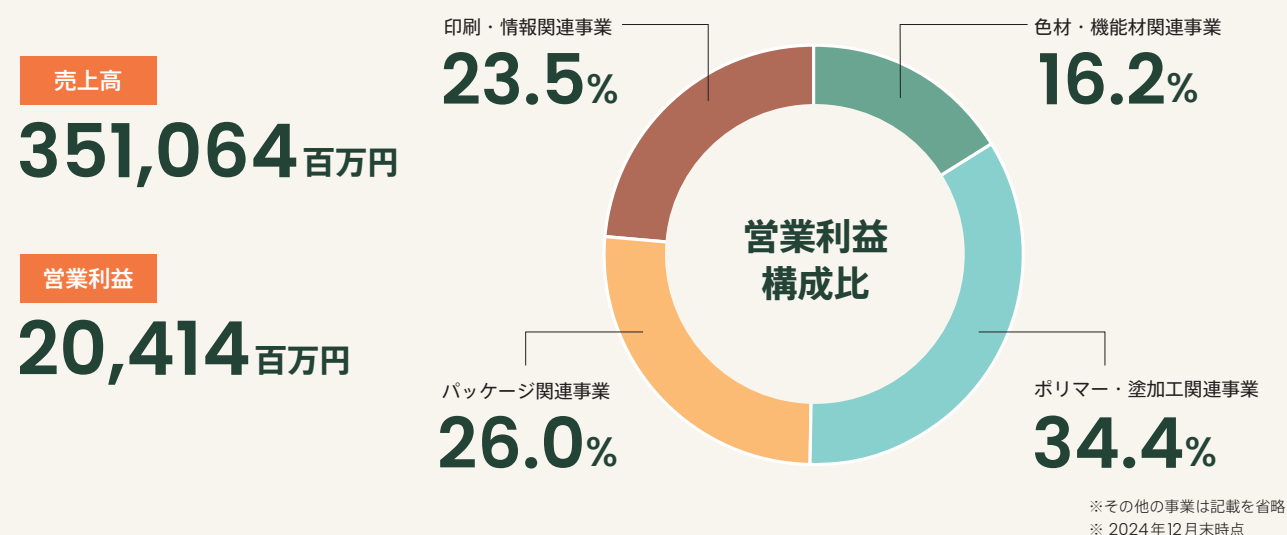
グループ売上高の推移

※1999年度までは単体業績、2000年度以降は連結業績



artienceグループの姿

色材・機能材、ポリマー・塗加工、パッケージ、印刷・情報の4セグメントで多彩な事業を展開。特定事業への依存度の低いバランス型のポートフォリオです。



私たちの生活に密着した製品群には、独自のコア技術・コア素材が活かされており、国内・海外で高いシェアを獲得しています。



色材・機能材関連事業

▶P.50

低分子・色材設計技術と分散技術を組み合わせることで、ディスプレイ・センサー用のカラーレジストや、リチウムイオン電池正極材用導電カーボンナノチューブ分散体など、さまざまな分野に機能性材料を展開しています。

- ・EV向けリチウムイオン電池用CNT分散体
- ・ディスプレイ用カラーレジスト
- ・デジタル印刷用色材
- ・容器・自動車向けプラスチック用着色剤



ポリマー・塗加工関連事業

▶P.52

ポリマー設計技術と塗加工技術を用い、素材から開発できる強みを活かしてエレクトロニクスや半導体、メディカル分野などに先端の製品を提供し、またさまざまなサステナビリティ貢献製品の開発にも注力しています。

- ・軟包装用ラミネート接着剤
- ・エレクトロニクス用粘着剤
- ・モバイル機器用機能性フィルム
- ・飲料缶・食缶用コーティング剤



パッケージ関連事業

▶P.54

水性・無溶剤・バイオマス・リサイクル促進などさまざまな角度から環境対応製品を提供し、人びとの安全で豊かな生活と自然環境への配慮を両立することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。

- ・食品包装用インキ
- ・日用品パウチ用インキ
- ・建材用インキ



印刷・情報関連事業

▶P.56

artienceグループの原点であり、情報インフラを支える大切な事業です。長年培ってきた技術を応用し、包装関連向け機能性インキなど、新たな用途への展開を進めています。

- ・紙器用インキ
- ・包装ラベル用インキ
- ・飲料缶・食缶用金属インキ



artience at a Glance

財務指標(2024年度)

売上高

351,064百万円

前年比 +28,942百万円

営業利益

20,414百万円

前年比 +7,041百万円

営業利益率

5.8%

前年比 +1.6ポイント

経常利益

21,008百万円

前年比 +8,127百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

18,540百万円

前年比 +8,803百万円

ROE

7.3%

前年比 +3.1ポイント

設備投資額

18,441百万円

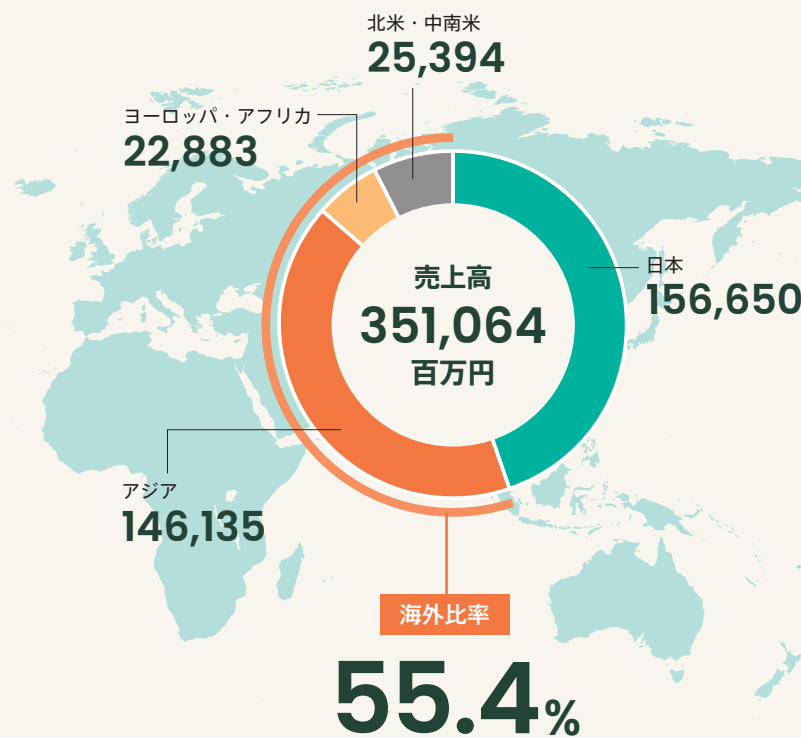
前年比 +715百万円

総還元性向

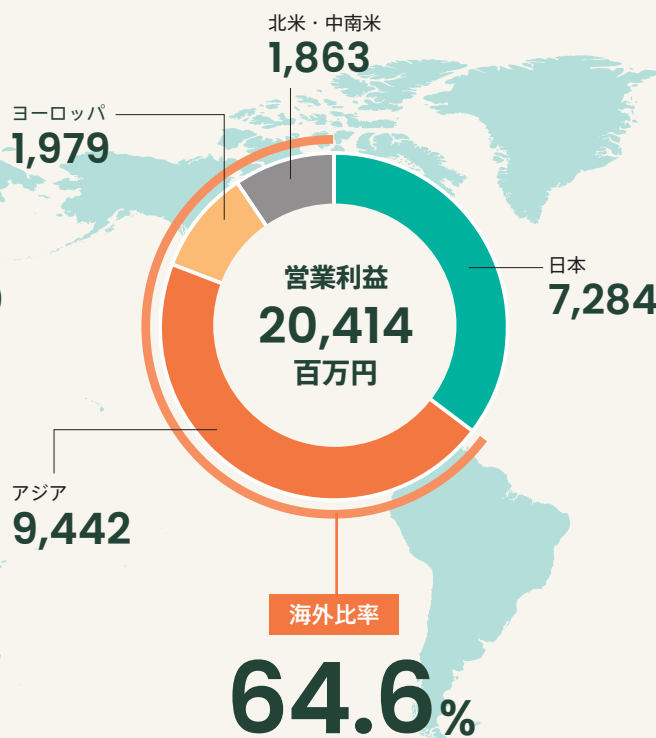
68.4%

15期連続減配なし

地域別グループ売上高(百万円)



所在地別営業利益(百万円)



※グラフには調整額は含みません。
 ※地域別グループ売上高は、当社および連結子会社の上記の各地域における売上高の合算です(ただし、連結会社間での内部売上高を除く)。
 ※所在地別営業利益は、上記の各地域に所在する当社および連結子会社の営業利益の合算であり、地域間の取引および全社的な費用を控除していません。
 ※所在地別営業利益において、アフリカに所在する当社の欧州子会社の連結子会社については、管理上、欧州の利益として計上しています。

サステナビリティ経営指標(2024年度)

GHG(Scopel + 2)排出量

152,002t-CO₂

2020年度比 -24.7%

サステナビリティ貢献製品
売上高比率

55.5%

前年比 +1.9ポイント

CSR調達率

69.1%

前年比 -1.4ポイント
カバレッジ 42.4%

エンゲージメントスコア

76

国内および一部海外を対象としたサーベイによる「持続可能なエンゲージメント」のスコア
▶ P.44

女性管理職比率
(2025年1月時点)

5.8%

前年比 +0.3ポイント

取締役会の女性比率
(2025年3月26日時点)

27.3%

取締役11名中、女性3名